



みんなの力でみんなの幸せ

s a w a r a b i

さわらび

12

December

2006

vol.404

医学
講話

食欲と肥満

名古屋大学医学部名誉教授 小島清秀

特集

障害者福祉は向上したのか



医学講話 食欲と肥満

名古屋大学医学部

名誉教授 小島 清秀

秋が急速に深まってきました。紅葉前線は山を駆け下り、里へと迫っています。山や野では動物たちは実った餌をせっせと食べて皮下脂肪を蓄え、あるいは餌を蓄え来るべき厳しい冬期に備えています。秋期に食欲を増し肥満するのは、人を含めた恒温動物の生理的な適応現象と考えられます。しかし文明社会を構築した人間は、本来の身体の恒常性を保つ以上に摂食し、食事量に応じた運動量をこなす事なくエネルギーの過剰の蓄積を起こすようになってきました。即ち、摂食エネルギー量と消費エネルギー量の差が大きくプラス

方向に傾き、肥満の度合いが増してきています。

現在、糖尿病、高血圧症、高脂血症などの生活習慣病の基礎病態である肥満症の爆発的増加が社会的な重要課題になってきています。今回は身体のエネルギーバランスがどのような仕組みで調節されているかを概説的にお話ししたいと思います。

いと思います。



脳における食欲の調節機構

腹腔内脂肪細胞で産生、分泌される摂食抑制作用を持つレプチンの発見を契機として、心(脳)の問題として考えられてきた「食欲」がホルモンや神経ペプチドなどの物質によって調節されていることが、次第に明らかになってきました。脳の視床下部では摂食調節ペプチドは複雑な神経ネットワークを形成し、消化管(胃、小腸)などのエネルギー摂取

臓器、肝臓や白色脂肪組織といったエネルギー貯蔵臓器、骨格筋、褐色脂肪組織などのエネルギー消費臓器は、相互に密接に連携し、情報を共有しあっており、脳はそのエネルギー情報のオーガナイザーとして重要な役割を担っています。

レプチンは白色脂肪組織の脂肪細胞により分泌され、中枢神経系(主として視床下部)に作用し、食欲抑制、交感神経系の活性化を起こします。エネルギー摂取過剰は脂肪細胞の肥大を起こし、レプチン分泌の増加を引き起こすことが知られています。視床下部は血清レプチン濃度の上昇をエネルギー過剰状態の情報として捉え、エネルギー消費を増加させるよう交感神経系の活性化を引き起こしてきます。脂肪組織のみならず肝臓もまた、エネルギー貯蔵情報を自律神経系の求心路を介して脳に情報を送り、エネルギー消費の亢進を行うことに一役を担っています。

て体重の恒常性を維持しています。これらの仕組みの詳細についても明らかにあります。

レプチンと逆の作用を持つホルモンが胃から分泌されていることも最近分かって来ました。グレリンと云われるホルモンで、脂肪酸で修飾された活性化型として、視床下部弓状核の神経細胞(NPY/AGRP)ニューロンニューロンペプチドYとアグーチ関連蛋白質を発現している神経細胞)に働き、情報を受け取った神経細胞は摂食亢進ペプチドを合成、分泌し、摂食亢進作用を発揮します。一方、レプチンはNPY/AGRPニューロンを抑制し、摂食抑制ペプチドであるプロオピオメラノコルチンを発現しているニューロンを刺激することにより、摂食抑制作用を現わすとされています。



肥満の制御機構

摂取エネルギー量と消費エネルギー量の差がプラスに大きく傾き、体内の生理的反応で処理できなくなった場合、エネルギーは脂肪の形で体内に蓄積されます。個々の脂肪細胞は肥大し、数を増加させて肥満が起こります。内臓脂肪型肥満と言われているものです。この様な肥満症には2型糖尿病が多発し、肥満とインスリン抵抗性との関連が考えられています。

脂肪組織はレプチンをはじめとして、多彩な生理活性因子（アディポサイトカイン）を分泌します。肥満を起こした脂肪組織では、善玉の因子の分泌が減り、悪玉因子の分泌が増加し、インスリン抵抗性の形成に大きく関わっている事も明らかになってきました。更に脂肪組織のみならず、消化管（胃、小腸）、肝臓、骨格筋、血液細胞などからも種々の液性因子や代謝制御に関わる因子が産生分泌され、標的となる臓器に働

きかける「臓器組織間相互作用」を介して、生体の恒常性が維持されていることが明らかになってきました。

これらの因子の分泌不全や、耐性などの機能不全による臓器間相互作用の破綻が、飽食や運動不足などの生活スタイルの変化によってもたらされる肥満を引き起こし、肥満を基盤としてインスリン抵抗性、高血圧、高脂血症、糖尿病が複合的に集積し、虚血性心疾患や脳卒中などの動脈硬化性疾患に発展する危険性をはらんでいます。

壮年期、老年期の健康を維持するためにも肥満には気をつけたいものです。

日本人の体質と肥満

糖尿病の増加は世界的な現象で、特に日本やアジアで際立ってきています。糖尿病はインスリン作用の不足で高血糖をきたす疾患です。日本人やアジア人のインスリン分泌は欧米人に比べて半分程度であり、日本人はインスリン分泌低下という特徴

を持っています。

この原因は過去数千年間の日本人やアジア人の食をはじめとする文明の違いに起因すると考えられます。人類は数千年前より、安定的な食糧確保を目指して文明を作り上げ、アジア人は農耕民族に、欧米人は牧畜民族という異なる文明を作ってきました。農耕民族は米作を主とし、蛋白源として植物性のものを中心にし、肉食の習慣もなく、脂肪摂取も少ない状態でした。これらの食はインスリン抵抗性を起こさず、インスリン分泌を高める必要もなく、これが日本人やアジア人のインスリン分泌低下の体質の元になっていると考えられます。牧畜民族は小麦や肉食が主体で、動物性脂肪の摂取が多く、インスリン抵抗性が惹起され、それがインスリンの分泌能が高いという体質を獲得するに至ったと考えられます。

経済の発展と共に食生活の内容が変わり、脂肪摂取量が急増し、イン

スリン分泌低下という体質的特性との間にアンバランスが生じ、糖代謝の破綻が起こり、糖尿病を招いたと思われれます。体質的な特性をわきまえず飽食、高脂肪食、運動不足になった日本人は小太りが増えてきています。小太り程度でもインスリン分泌が低いので、糖尿病が急増することになります。体質に見合った食事を取ることが大切です。

最後に「食」に先覚者であった貝原益軒（一六三〇〜一七一四年）の養生訓より、その数えの2〜3を抜粋して書き添えておきます。

- (一) 人の命は我にあり
- (二) 腹八分
- (三) 薄味淡泊なものを食べ、脂っこいものを食べるな
- (四) 肉を多く食うべからず
- (五) 食事は楽しく食べ、ゆっくり囓んで食べること



森外科クリニック院長 森 澄

シギ(鳴)

七月から十一月にかけて日本に飛来して、田畑や沿岸などで羽根を休めているシギの姿が以前はよく見られたものです。このシギの種類は非常に沢山あります。

冬は赤道附近で越冬し夏には北極圏近くまで移動して繁殖するそうです。その移動の途中に日本で姿を見せてくれるのです。

シギの中の田嶋・浜嶋・青嶋のように日本でそのまま越冬するのもありますし、大地嶋のように日本で繁殖するのもあります。

渡りのとき大群で飛来し、沼沢や水田などの湿った土地の藪にひそんで棲息する田嶋の類と、河口・港湾・海浜などの広々とした所に公然といも卓嶋・磯嶋・鶴嶋などに区別されますが、普通シギと言われるものは

田嶋が代表で、いわゆるシギ形といわれる長い嘴を持ち、羽は黒地に黄褐色か赤褐色の斑点のある小さな鳥を総称して言っています。

水田などに棲息する時は、一、二羽の小群に分かれて身を秘めています。

このさまが静かなことを「シギの看経」という言葉さえある程です。

看経とはお経を黙ってあるいは小声で読むことを言いますので、鳴はよほど静かにしているのでしょう。

しかし飛び立つときには、ジャーツ、ジャーツと鳴きながら桶妻形に飛び立ち、すぐに直線上に快速で飛びます。この点が狩りの獲物として恰好のもののように狩獲期随一の獲物と言われているそうです。

自然がどんどん失われていく地球上で、これらの鳥達がいつまでも沢山見られるような環境を保たねばなりません。

看護師さんシリーズ④

少し前のことですが、年配の女性

の患者さんで、肺癌の腰椎転移のため腰痛を訴えて受診にいられた方がありました。病状から診て対症療法しか出来ませんでしたので、鎮痛処置のみを施行しました。

その後次第に病状が進行し、椎体の破壊所見は痛み程度も増してきましたので、ご家族と一緒に癌病棟の症状をはっきり告知し、ホスピス入院をおすすめしました。

ご希望を受け聖霊三方ヶ原病院のホスピスをご紹介します、入院されました。

その後約四ヶ月経ったある日、その患者さんの妹さんが来られ、お姉さんが亡くなられ日記を残して逝ったのでと言って見せて頂きました。

日記は入院直後から亡くなられる前日迄の事が大学ノートにびっしりと書いてありました。

痛みに耐えながらの毎日の様子やご家族が見舞いに来られた時の喜びの様子などが書かれていました。

特に私の胸を打ったのは、受け持ちの看護師さんの優しさに溢れる看

護に対する感謝の言葉でした。

この看護師さんはいつも自分の受け持ちの患者さんのことを忘れずに、調子の良くない日は帰宅後そっと覗きに來たり、院内でイベントなどがある時は休みであっても私服でやって来て、その患者さんを車椅子に乗せて一緒に参加して癒しに心掛けたり、痛みがある時はいつでもその部位を擦ってあげたりされたことが、克明に書かれてありました。

亡くなる前日までやさしい看護に感謝の気持が書き綴られていました。

私はこの看護師さんの態度に大変感銘し、妹さんのお許しを頂いて医師会の准看校の教科書に使わせて頂きました。タイトルを「旅立ち」としてプリントして生徒に渡しました。

この患者さんは、最後まで痛く苦しい闘病であったと思いますが、やさしい看護師さんの力できつと安らかな旅立ちをされたことでしょうか。

看護師さんの美しい話はいつまでも心に残っています。



セミナー報告

福祉村病院長寿医学研究所
副所長 赤津裕康



去る10月13日に英国の多発性硬化

症 (multiple sclerosis: MS) tissue bank (Imperial College) 主事のボラ先生 (Dr. Abhish Vora PhD) による講演 (The UK Multiple Sclerosis Tissue Bank: an international resource for research) がありました。

彼とはこの6月にイタリアで開催された国際ブレインバンク会議で知り合い、10月16日から名古屋で行われた国際神経免疫学会への御参加の折に立ち寄っていただきました。

ボラ先生は1985年からMSの研究に従事されており、MS tissue bankは1998年に設立され、英国国立で運営されています。講演ではこのbankの運営状況、サンプル処理の方法などを詳細に御紹介いた

いただきました。同じブレインバンクを運営する我々福祉村病院長寿研にとっても非常に参考になる話ばかりでした。運営が英国国営だけあって、予算や設備が桁違いであり、国を挙げてMSの解明に力を入れている

(MS)の発症率は英国・北欧に比べて日本は圧倒的に少ない) 姿勢には驚かされました。我々の施設もアルツハイマー病研究においては国内屈指のブレインバンクであるため、将来、日本政府も英国を見習ってくれないものかと痛切に感じました。

◀お忙しい中、長寿医学研究所で
ご講演くださったボラ先生。
ありがとうございました。



プロジェクト形成 研究会開催

報告者 福祉村病院リハビリ部長
榊原利夫

プロジェクト形成研究会が11月7日、福祉村病院で開催されました。

このプロジェクト形成研究会は、豊橋技術科学大学教授の寺嶋・彦先生を中心に、中部地区の大学、高専、及び公的研究機関等が有する技術の中から、企業等のニーズが高く事業化が期待されるテーマについて、産学官の緊密な連携の下に共同研究プロジェクトをまとめ、翌年度の公募型研究開発事業に提出、採用されることにより、地域における新製品、新規事業、新産業の創出に寄り添うことを目的に活動しています。

私は現場の理学療法士という立場で助言等を行なう為、研究会の委員として参加しており、今回はリハビリテーション医療の現状について話しました。その他の内容は、介助口

ボット、リハビリテーション機械の研究開発の報告、今後の活動計画の検討、施設見学等が行なわれました。現在、寺嶋先生が研究開発に取り組んでみえるのは

- ・低振動で全方向移動可能な電動車椅子

- ・力の弱い人でも可能な介助支援システム

- ・在宅で運動療法ができる遠隔制御システム

等、医療福祉の分野でニーズが高いテーマで、今後の活動が期待されます。



記念文化祭



ええじゃないかパレード。
沿道の方の参加もあり、
みんなで楽しく踊りました。



さわやかな秋晴れとなった11月3日、第25回さわらび文化祭が盛大に開催されました。準備から当日にいたるまで本当にたくさんのお力添えをいただき、お越しいただいたお客様にも施設利用者の皆さんにも、楽しく有意義な時間をお過ごしいただくことかと思えます。

第二さわらび荘でのオープニングでは、山本理事長の挨拶や山本左近選手の特別企画が行われました。続く「ええじゃないかパレード」踊つてご利益」では、各施設からの参加者に多数のどび入り参加も加わり、200人を超えるにぎやかなパレードとなりました。



もったない 資源再利用作品展

世界の環境保護活動で使われる、「リミ減量 (Reduce)」「再利用 (Reuse)」「再資源化 (Recycle)」の「3R」をひとことであらわす「もったない」。ノーベル平和賞を受賞されたケニアの副環境大臣ワンガリ・マタイさんが、この言葉を世界に提唱しています。この「もったない」を形にし、ご来場いただいた皆さんと共に考え取り組んでいくため、職員の発案でこの企画が行われました。会場では活発な質問や意見交換が行われていました。

11月3日
賑やかに開催されました。

●さわらび会創立 30周年

～みんなの力でみんなの幸せを～

第25回 さわらび文化祭



F1ドライバー山本左近選手の
オフィシャルグッズ販売は大盛況で、
準備した山積みのグッズは
全て売り切れとなってしまいました。



▲介護者交流会の様子



さわらび文化祭のフィナーレを飾る毎年恒例
となったさわらび座。今年は「木枯らし紋次郎」。
会場に入りきれないお客さんのために外には
特設モニターを設置し、1時間を超える大作に
挑みました。

介護者交流会で 明るい未来を

福祉村で暮らす利用者や入院患者様のご家族様が交流する機会を設けることで、介護者の負担が少しでも軽くなればと、文化祭当日、高齢者と障害者それぞれの分野に分かれ「介護者交流会」を開催しました。

障害分野では、「このような交流は30年で初めてだった。」「お互い知らなかったことがたくさんあり、他の施設も見てみたい。」など興味深いご感想をいただき、交流の回数を重ねてお互い情報交換をし、利用者のためになることは取り入れよう、ということになりました。

高齢者の分野に参加された方の中には、認知症患者の介護に苦しんでいるのは自分ひとりではないんだと勇気づけられ、みんなで悩みを共有することで気持ちが楽になったと発言される参加者の方も見えました。

私たち職員は、ご家族の利用者への想いを参考に、より充実した生活

ができるよう、今後も支援してゆきたいと思います。

転倒予防の 介護ミニ講座開催

高齢者の寝たきりの原因のひとつである転倒による骨折を防ぐため、健脚度測定などを体験していただきました。健脚度を測る40センチの踏み台昇降は、実際に行ってみると上手くできない方も多く見え、足の衰えを実感した参加者も多かったようです。測定の後には、健脚を保つために簡単に出来るつき足歩行など、転ばないための体操や重心動揺計を使った検査などを行いました。



第25回文化祭におきまして、皆様からたくさんのご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様、ご協力ありがとうございました。

特集・障害者福祉は向上したのか



自立支援法は障害者、家族に優しいか

12月9日は、国連で「障害者の権利宣言」が採択された日です。

日本では国際障害者年の1981年に、障害者問題に対する理解と認識を深めるために定められ、今年が25年目を迎えます。この25年の間に障害者をとりまく環境はどうなったのか検証してゆきます。

● 障害者施策の変遷

1975年の「国連連合の障害者の権利宣言」そして1981年の「国際障害者年」を契機に、日本においても障害者施策の計画的な取組が進められてきました。しかしながら日本の障害者施策は施設収容施策が中心であり、地域の中で障害者が自由に福祉サービスを選択し、利用できるようになったのはつい最近、2003年施行の「支援費制度」からの事でした。障害者の権利宣言から30年を経てやっと障害者の地域生活が現実味をおびてきたと言えます。しかし支援費制度が財政上の理由により3年という短命で終わりを告げ、いよいよ「障害者自立支援法」が施行されることとなりました。

負担感の大きい制度となっています。

現在の日本が「格差社会」と言われていますが、障害者の世界も「格差社会」が存在するようになったのかもしれません。

この法律が施行され大きな影響を受けたと思われるのが「グループホーム」利用者、特にグループホームで生活しながら授産施設に通ったり、ホームヘルプを使ったりと、使うサービス量の多い人達です。今回の特集ではこのグループホームにスポットを当てて考えてみたいと思います。

● 本人の声 (本人活動シンポジウムより)

11月4日、豊橋市カリオンビルにおいてシンポジウムが開催されました。自立支援法が施行され利用料の負担増、そしてサービス量の低下に不安を抱いたグループホーム利用者自身が中心となり、自発的に開催したシンポジウムでした。その中で印象的だった二人の言葉を紹介させて頂きます。

「障害者自立支援法が始まり世話人

さんが多くのグループホームをかけ持ちしているのでゆっくり話を聞いてもらえません。(※)小遣い帳も世話人さんに見てもらいたいのになかなか見てももらえません。昔のように一つのグループホームに一人の世話人さんをお願いします。」(牧野ハウス利用者 小野田洋子さん)

(※)10月1日よりグループホームの法的職員配置が変わり、それまで利用者4人に1人の世話人体制だったのが、6人〜10人に一人の世話人の体制へと変更になった。またグループホームへの事業費も豊橋市内の事業所で22%〜34%減額となっています。

「僕は働きたいのですが足が悪く病気もあり仕事ができません。自立支援法がはじまって利用料が増え大変です。年金だけでは生活できません。でも僕は人所施設には住みたくありません。グループホームですっと住みたいです。みんなが安心して住めるグループホームにして下さい。」(さわらびホーム利用者 白井一郎さん)



▲本人活動シンポジウムの様子

このようにこの制度に不安を抱いている言葉が多かった反面、「世話人さんが少なくなり自分で頑張るといふことが分かり、朝一人で起きられるようになった。」などと制度の趣旨に沿った前向きな意見も聞くことができました。またこのシンポジウムには7名の豊橋市市会議員の方に参加を頂きました。この制度で利用者の方がどう生活し、何を考えているのかを実際に感じて頂けたのではないかと感じました。これからの制度改革に期待のもてるポイントでした。

● 家族の声 親の想い

「親は残念ながら子供より先に死に子供を生涯守り続けることはできない。だから、すでに親はいないものとして、強い心と強い体をつくり、社会人となるための土台づくりの努力を15歳までにしろ。そして、障害があるゆえに理解できないことは周りの人に教えて下さいと言えようになれ。どう頑張っても自分だけでできないことは周りの人に助けて下さいと言えようになれ。そして、支えてくれた人には深く感謝しろ。学業を終えてからは自分に自信を持って、自分の力を最大限に発揮して一生懸命稼ぎ、多くのことに感情を持ち自分を磨きながら自分の人生を歩め」と思いながら障害のある息子に接してきた私は、今年度から施行の障害者自立支援法の精神は共感できるものがある。

しかし、障害のある息子も今のところはやりがいのある仕事に就き若くて元気だが、何らかのきっかけで

職を失い、一年づつ年を重ねて行っ

て気力や体力が落ち、今よりさらに支援が必要になった時、この法律にやさしく手を差し伸べられる仕組みがあるかと言えば私には見えない。

報酬単価の激減は障害者への配慮かもしれないが年金だけが頼りの者にはきつく、事業者にとっては当然しんどい話で、この影響から福祉サービスの提供が激減してしまうのではないか、或いは障害のあるその人の人生に寄り添うという重い仕事に見合わない給料では福祉を担って下さる人がいなくなってしまうのではないかと不安が過ぎる。

新たに誕生した障害者自立支援法は障害者を闇雲に保護することから脱却した。これを受けて親も自分でできることは最大限やっていこうと思う。後は、やりきれない部分があっても地域で普通に暮らし続けられる仕組みづくりを、今一度しっかり時間をかけて検討していただくる事を願っている。(グループホー

● キーワードは安心

ム利用者家族 大森妙子さん)

今回の障害者自立支援法の施行にあたり利用者、家族の皆さんが思っていることを総合すると、この法律

の自立を日指すという事とサービスを利用したらそれなりの負担が必要なものも理解できるが、自立できない障害者はどうすればいいのか？障害者それぞれ障害の重さが違うのにその自立度は誰が認めてくれるのか？多くの不安を抱いているように思います。始まったばかりのこの法律には不備が多いのは当然かと思えます。私たちがさらび会の障害者支援に関わるスタッフとしては利用者、家族の持つ「不安」をより「安心」に近づけるよう日常的な支援を展開し、またこの法律が良い方向に向かうため多くの人達の声を集約し、行政、議会にお伝えし、障害者が「安心」して住める街作りのお役に立ちたいと思っています。(あかね荘障害者支援センター 江川)

見果てぬ夢を 来季につないだ ブラジルGP!!

3戦(中国、日本、ブラジル)連続の完走



F1最終戦 ブラジルGP開幕

10/
20~22

今回のブラジルGPは夢のF1ドライバーとなった2006年シーズンを締めくくるとのグランプリ。それだけにこの試合にかける思いは強い。このレースを前に「自分の持てる力を100%発揮できるグランプリにしたい」と左近選手は話していた。

手に汗握るレース展開

金曜日のフリー走行ではエンジントラブルのために、他の選手の半分程度のアタックしか出来なかったが、土曜日の予選に向けて妥協のない調整を行った。この努力が功を奏し、土曜の予選はノーミスで3回のタイムアタックに成功し、翌日への好感触をつかんだ。

明けて10月22日、日曜日。快晴の天気の中、今シーズン最後のレースに挑む左近選手。「昨日までのフリー走行でセッティングを煮詰めてきた」との言葉どおり、決勝では難し

いコースに対して自分の持てる力を100%出し切り、またライバルとも白熱したバトルを繰り広げた。

感動のレース結果

結果、ブラジルGPも見事完走し中国GP、日本GPに続いて3戦連続でチェッカーフラッグを受けた。

給油トラブルのため1回多くピットストップというアクシデントがなければもう少し上位でゴールできたが、レース後そのことにはまったく触れずにチームメイトやクルーへの感謝の言葉を述べた左近選手。また「鈴鹿でもいいレースが出来たが、今日は格別。全く妥協することなく、最後は予選と同等のタイムを刻むことが出来た。最初から最後まで楽しむことが出来て最高の気分だ」とコメントを続けた。

その言葉どおり、今回のレースにおける最速タイムは全体で7番手。さらにブラジルのサーキットで一番難しい第二計測区間(セクター2)ではM・シューマッハに次ぐ2番手

2006 F1ルーキー 山本左近

夢を現実にした1年



のタイムを叩き出し、これには担当のエンジニアも口を丸くしていたとのことだ。

そんな彼が「だから、これが最終戦だということが寂しい。自分ももっとも成長できることを今日は確認できたし、ドイツGPでF1デビューした僕にとって、今回はまだ第7戦。これを最終戦にしないで、今後につなげたい」と語った。

来季へ夢を乗せて

今回のレースは左近選手のこれからの可能性をおおいに感じさせるものであった。また今期レースには7戦に出場したが、そのパフォーマンスは、試合を経ることに上昇して行った。まさに底知れない可能性を持ったレーサーだと言える。来季以降はこのおおいなる才能を開花させ、「夢を叶える」という名の翼をまとうてF1マシンという怪物を乗りこなし、さらに上の順位を狙ってもらいたい。私たちも左近選手を今後も見守り続けたい。

「お遍路さん」



「四国八十八ヶ所霊場めぐり」

福社村病院副院長 伊莉弘之

第六回 夜はおきまりの枕投げ

第七番上楽寺から第八番普明山

（ふみようざん）熊谷寺（くまたにじ）まで車で十分。熊谷寺は小高い山の中腹にある。一六八七年に建立されたという仁王門と仁王像は重厚で豪壮なものだった。



第八番熊谷寺から第九番正覚山

（しょうかくざん）法輪寺（ほうりんじ）まで車で十分。広々とした田畑の中にはぼつんとある寺。涅槃釈迦如来を本尊とするのは八十八ヶ所の中でこの寺だけである。

いよいよ暗くなりかかってきたの

で今夜泊まる予定の「かんぼの宿徳島」へ向かった。お遍路さん用の宿坊や民宿はあるのだが、かんぼの宿に宿泊した。民宿や宿坊よりは割高となるが、一般のホテルや旅館よりは安く、老人と小中学生連れでも利用しやすかった。

一日の疲れは予想以上のものだった。大きなお風呂と整った夕食は一日の疲れを癒してくれた。寝る前には娘たちと「枕投げ」をしてしまった。「いい大人が何をしている。止めなさい。」と

久しぶりに母親に叱られた。なぜだかうれしかった。当時は足摺岬の近くに「上佐中村」と愛媛県の西の方に「伊予肱川」というかんぼの宿もあり、四国にある八ヶ所の宿を順に利用した。（地図は現在ある六軒のかんぼの宿）



15日 名古屋日本赤十字病院40名見守り第四回延命委員会（山本旗説、市後所）

16日 福社村病院副院長（東路、名古屋）

10月16日 ■珠藻荘 障害者生活支援事業愛知県連絡会（田中、芝原、岡崎市）

18日 障害者生活支援ネットワーク会（田中、松井、さくらアリア）

19日 白濁会

23日 家族会役員会

27日 障害者相談支援従事者研修にて講師（田中、松井、市後所）

11月2日 障害者相談支援従事者研修（小原市役所）

7日 防火管理向上推進委員会にて講師（小原フイノボートとよはし）

15日 愛知県福祉心身障害者ホーム協会（施設長、石田、名古屋）

24日 愛知県サービス管理責任者研修（施設長、名古屋）

26日 愛知県福祉心身障害者療養施設職員研修会（鈴木、豊田市）

10月20日 ■若菜荘 自営活動日

24日 自営活動施設職員研修（施設長、名古屋）

25日 県老健協賛介護士研修（永田、蒲郡）

26日 県老健協賛職員研修（施設長、名古屋）

27日 県老健協賛職員研修（伊藤、県社）

28日 野依校区健康教室

10月7日 全国奉迎協大会（施設長、神戸市）

10日 若菜会役員会

11月6日 若菜会地域活動日

8日 田原市福祉サロンへ参加（施設長）

9日 愛知県知的障害者福祉協会会報編集打ち合わせ（施設長）

10日 田原市障害福祉計画策定委員会（施設長）

13日 白濁会

14日 グループホーム会議

10月16日 ■明日香 就労支援セミナー（山本）

17日 東三セブ施設長会議（施設長）

19日 園地検査

20日 東海地区知的障害労働施設職員研究大会（施設長）

21日 田原福祉専門学校文化祭にて販売

27日 障害者ケアマネーシメント研修（山本、古元、山後所）

31日 今後の障害福祉を模索する会（施設長、名古屋）

11月6日 東三セブ研修会（施設長、岡田、ウイスキー）

8日 サービス管理責任者研修（施設長、名古屋）

9日 家族会役員会

10日 福祉協会所授産施設運営研究協議会（岡田、蒲郡）

14日 白濁会

14日 東陽中学校生徒体験学習

10月14日 白濁会

10月14日 東陽中学校生徒体験学習

みんなの安心・安全を守る さわらび会の防災活動



高齢者が地域で安心して生活する為に
(豊橋消防本部と協力しての防火診断)

これから冬を迎え、空気も乾燥しがちで火事の起こりやすい季節になります。総務省消防庁の報告によると、今年1月から6月までの総出火件数は3万件近くで、約1200人の方が亡くなり、この中で住宅火災により死亡したのは約800人、そしてその6割の方が65歳以上の高齢者であったとのこと。

高齢者の住むいわゆる「住宅」での防火対策や防火診断は効率的に実施されていないのが現状です。特に独居の方は危険度があがってきます。今回豊橋市消防予防課では秋の火災予防運動と合わせて、防火診断件数の促進と効果的な診断を促す為に、訪問介護事業所と協力して、ヘルパー派遣時に消防署職員が同席して防火診断を実施する事業を行うこととなりました。

該当する方は①自力での避難が困難な方②喫煙の習慣があるか、日常的に火気を使用する方③消防職員による火災予防指導を受けることが適当とされる方で、豊橋市内の1人暮らし高齢者を対象に10件行われます。

第二さわらび訪問介護事業所を利用いただいているご利用者の中にも該当者が見えましたので、防火診断を申請しました。当日は暖房器具の確認や、ガス器具の配管のチェック、又避難経路の確認等が消防署職員によって行われました。ヘルパーも一緒に確認することで、ご利用者の方も一層安心されたようでした。

高齢者の方が安心して地域で生活できるように、介護保険関係はもとろんその他様々な機関と連携協力を図りながらサポートしていきます。



福祉村の防火と災害弱者への支援

11月2日、ライフポートとよほしにて、「防火管理者上級講習会」が行われ、さわらび会の防火管理者である珠藻荘の小原介護士長が講師として派遣されました。これは秋季火災予防運動の一環として行われ、市内の事業所の防火安全対策推進を図るために開催されたもので、防火管理者150名ほどが参加されました。まず、一般の方々に福祉村への理解をいただくために福祉村全体のことや各施設の紹介をさせていただき、「福祉村における防火管理」という講演を行いました。



▲珠藻荘小原介護士長による講演の様子

福祉村を利用される方々は、福祉村で、200名の受け入れ態勢を整えています。阪神淡路大震災や中越地震の復興支援にはたくさんの職員を派遣してきましたが、その体験に基づき、食料や簡易ベッドなどの備蓄も整えています。また、第二さわらび荘に災害無線を設置しており、避難されてきた方々に万全の支援体制を整えています。(小原)



▲11月14日に福祉村バス停付近から実地訓練を実施した。想定した火災発生時に、11月14日実施

村病院の入院患者の方を含めほとんどが災害弱者であり、介助がなければ避難が非常に難しいことを伝え、その対策として初期消火訓練や避難訓練、緊急連絡網訓練を定期的に実施していることを話しました。

福祉村に
ある高齢者
施設や障害者
施設では、災害時には一般の避難所での生活が困難な災害弱者の避難所としての役割を担っています。

さわらび会後援会 寄附ご芳名

- (H18・10・15～11・14)
- 一、岡崎市井田町寺前二五〇 壹万円
 - 一、夏目正子氏 壹万円
 - 一、市内牧野町九〇 伍千円
 - 一、小松ウメ氏 伍千円
 - 一、春日井市藤山台五一一一三 伍千円
 - 一、牛山茂行氏 伍千円
 - 一、東京都新宿区左門町九 伍千円
 - 一、財団法人国民保健会 壹万円
 - 一、市内神野新田町字ノ割一八一 壹万円
 - 一、豊橋港陸運協 代表取締役 高瀬洋示氏 壹万円
 - 一、市内牛川通五丁目一〇一三 壹万円
 - 一、海老名市上今泉五〇三 壹万円
 - 一、海老名市北部地区民生東委員協議会 伍千円
 - 一、さわらび文化祭 森澄氏 松谷英世氏 金子昌弘氏 青山英夫氏 竹本君代氏 豊橋みなとライオンズクラブ 田原福祉専門学校 高松徹氏 野依校区総代会 野依台二丁目顧問 福田孝之氏 井上食品 田京豆腐店 魚丈商店 中神尚人氏 壹拾六万円

- 一、野依校区総代会 壹万円
- 一、市内入舟町二一 参萬円
- 一、新城市南畑七四 壹万円
- 一、光田屋 肆千円
- 一、市内東雲町四七 壹萬六千円
- 一、梅村敏夫氏 壹萬六千円
- 一、市内大清水町字宮上見八〇四一 壹万円
- 一、榑松谷建設 伍千円
- 一、市内小池町三六一 伍千円
- 一、共和印刷 伍千円
- 一、市内高塚町神田六八 伍千円
- 一、田京敏明氏 伍千円
- 一、市内中岩田三丁目一〇一三 壹千円
- 一、白井良治氏 壹千円
- 一、豊川市正岡町胡麻田七三二 肆千円
- 一、榑マルスホームデザイン 伍千円
- 一、市内弥生町西豊和九一九 壹万円
- 一、林 昭氏 壹万円
- 一、市内菅町三〇 壹万円
- 一、榑中野新松商店 壹万円
- 一、市内瓜郷町前川五〇一 壹万円
- 一、鈴木弘生氏 壹万円
- 一、市内東新町三二四 壹万円
- 一、榑口医工新和 壹万円
- 一、市内間屋町一五一五 壹万円
- 一、榑スズケン 壹万円
- 一、市内東田町一五四 壹万円
- 一、濱竹田商店 壹万円
- 一、市内飯村北二丁目一六一六 壹万円
- 一、榑滝川器械店 壹万円
- 一、市内東藤三丁目一七一 壹万円
- 一、森田由利子氏 壹万円
- 一、市内白河町一〇〇 壹万円
- 一、中部ガス 壹万円
- 一、市内神野塚頭町 壹拾六万円

- 一、神野臨海 壹万円
 - 一、市内東新町三二四 壹万円
 - 一、榑口医工新和 壹万円
 - 一、市内野依町山中一九一四 肆千円
 - 一、福祉村病院職員有志 四千元
 - 一、匿名希望氏 壹万円
 - 一、匿名希望氏 八万円
 - 一、匿名希望氏 貳万円
 - 一、匿名希望氏 壹万円
- 計 七拾参萬圓千円
- 現在までに寄附いただきました金額は 八億壹千貳百拾八圓 七百壹拾八円

インド福祉村協会 寄附ご芳名

- (H18・10・11～11・10)
- 一、静岡県浜松市初生町一四二一 とびあ浜松農協初生支店 壹千貳百七拾参円
 - 一、名古屋市千種区奥子殿一九一 中川三千代氏 伍千円
 - 一、名古屋市中区新栄一七七一 東海労働会 四千元
 - 一、豊橋市野依町字山中一九一三 水野浩氏 壹万円

募金方法(インド福祉村)

- 一、豊橋市高師町字西沢六四一四 赤船かね氏 伍千円
 - 一、名古屋市昭和区山花町五〇 医療法人 生寿会 理事長 酒井宏氏 伍万円
- 計 七萬伍千貳百七拾参円
- 振込先 郵便振替・郵便振込
口座番号 〇〇八二〇二一六五〇〇八
インド福祉村協会 軽費老人ホーム若菜社
〒418-1111 三八まで

おれコーナー ありがとうございました

- ※印は豊橋善慈銀行を通して
- ▼山光南興株式会社様 りんご御禮※ (さわらび荘・明日香・珠藻荘・あかね荘・第一さわらび荘)
- ▼武雄山後援会様 大相撲番付表※ (明日香)
- ▼岸上剛史様 WFMプロレス招待券※ (明日香)

インフォメーション

精神障害のある方のサービス利用計画を作成します。

あかね荘障害者生活支援センターは指定相談支援事業として3障害(知的・精神・身体)でのサービス利用計画を作成させて頂いています。特に10月より精神保健福祉士を配置し、精神障害の方へのサービス利用計画の充実を目指しています。福祉サービスのご利用でのご相談の際は当センターまでご連絡下さい。

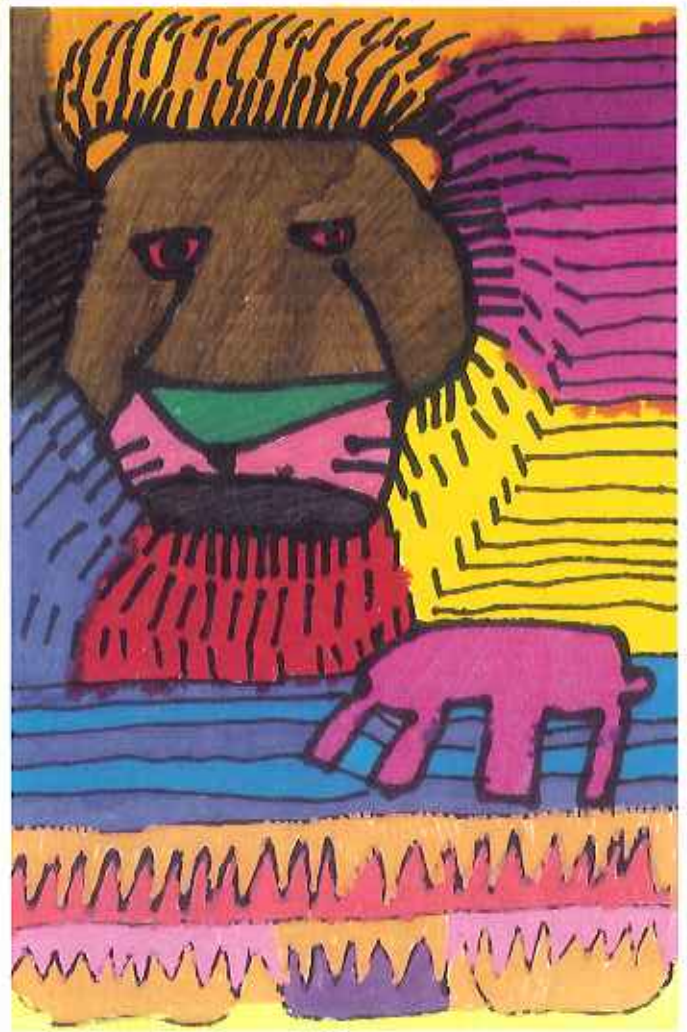
あかね荘障害者生活支援センター
電話〇五三三三八九〇九〇

さわらび大学からのお知らせ

- 12月～2月はインフルエンザ感染予防のため、大変ご迷惑をおかけいたしますがさわらび大学は休講とさせていただきます。
- さわらび大学の講座テーマを受講者の皆様から募集しています。ご要望がありましたらお気軽にお寄せ下さい。

軽費老人ホーム若菜荘
TEL〇五三三四八一三三八
FAX〇五三三三三六五

ライオンキング



駒井順一さん（あかね荘さわらびホーム入居者）

みんなの力でみんなの幸せ

2006年12月1日発行 早蕨 第404号

（昭和62年2月21日第一種郵便物認可）

充実した医療と福祉

- 特別高齢老人ホームさわらび荘
TEL (0532) 54-3501
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウスカサ デ ローザ
TEL (0532) 37-1209
- 軽費老人ホーム 若葉荘
TEL (0532) 48-1138
- 身体障害者療養施設 珠藻荘
TEL (0532) 47-1050
- 知的障害者更生施設 あかね荘
TEL (0532) 48-2825
- 福祉村病院
TEL (0532) 46-7511
- 知的障害者授産施設 明日香
TEL (0532) 46-6579
- 障害福祉サービス事業所 しろがわ
TEL (0532) 48-1032
- 福祉コンビニ(東山町)
TEL (0532) 69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生
TEL (0532) 38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原
TEL (0531) 24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
TEL (0532) 46-7501

社会福祉法人 さわらび会
代表 渡辺 謙一

編集責任者：武田和政 印刷：共和印刷機 定価：100円

■表紙作品：福祉村保育園児のみなさん

編集後記

介護保険法が今年の4月に改正され介護予防事業がスタートした。いくら寿命が長くなって介護を必要とする期間が長くても本人もお世話をする人も大変である。そのためにも介護予防はとて重要なことであるが、体制整備の遅れなどから想定される対象者の数を大きく下回っているのが現状である。今回、その介護予防事業に思ってもいなかったところから参入の名乗りが挙がった。サッカーのリーグである。高齢者が介護を必要とせずに暮らせるように地域のスタジアムでコーチやトレーナー、選手らがストレッチなどの健康法を指導するというもので、スタジアムを有効利用して地域社会にも貢献する狙いもあるようだ。サッカー好きの私としては、大変興味のあるところであるし、ぜひとも成功して頂きたい。(武田)